

確かな基礎的・基本的事項を習得し、  
考える力を育成する授業の創造

問題解決的学習の推進（千秀学習スタイルの構造化）

○学習課題（問題）の明確化

- ・本時、何を学ぶのか児童の把握。
- ・学習課題提示は児童が理解しやすい工夫（具体から論理へ）を図る

○自力解決

- ・活動・作業を伴った時間の設定
- ・児童の状況把握につとめ、個での解決が困難な子への支援

○集団での解決

- ・個々の取り組みの発表の場、意見交換
- ・共通点の見だし・よりよい方法の選別・統合

○まとめ

- ・どこの場にも使える方向・方法等の絞り込み
- ・子どもの言葉で、一般化 ・多様な形でまとめる  
(文章、図、発表 e t c)

○評価

- ・児童の理解度・習熟度の測定・学力の数値化・目で見える  
(小テスト、ノート点検、見取り、作品チェック)

例 算数科授業の構造化

	教師の働きかけ	子どもの姿
課題の明確化	<p>1 課題提示（課題の明確化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要感がある</li> <li>・知的好奇心を高める</li> <li>・課題(既習との違い)を明確にし、解決への見通しをたてられるようにする</li> </ul> <p>2 自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項を活用できるようにする工夫</li> <li>・子どもの実態を把握し個に応じた支援の準備をしておく(掲示物、ヒントカード)</li> <li>○表現の工夫</li> <li>・具体物、数直線、グラフ・図・式などを活用できるように普段から指導する</li> </ul> <p>3 共同思考</p>	<p>「いままでとここがちがうぞ」 「前の学習が使えるそうだなあ」 「こうすれば解けそうな気がする」</p> <p>「あの掲示物に書いてある方法が使えるそうだ」 (ヒントカードを見て) 「この図、前の学習で使ったことあるぞ」</p> <p>「考えを図に表してみよう」 「図を式でもあらわせるかな」</p>

集団での解決	○考えを伝え合う工夫	「考えを図に表して説明しよう」
	・具体物、数直線、グラフ・図・式などを活用	「ぼくと同じ(ちがう)考えだ」
まとめ	・自分と友だちの共通点、相違点の明確化	「これとこれは同じ考えだ」
	・考えのよさの明確化 (有用性、簡潔性、一般性、正確性、能率性、発展性、美しさ)	「あの考えが一番簡単だ」 「この考えはすべての方法に共通している」 「他の問題でもこの考えが使えるかも」
	4 まとめ	「今日、学んだことをまとめよう」
	5 活用問題(評価活動)	「今日学んだ方法が、他の問題でも使えるか試してみよう」

### 学習問題から学習課題への過程で明確化

#### ○学習問題の提示

(具体的な問題例

12 + 19)

- ・子どもにとって身近なもの、切実性のある問題の設定
- ・問題の要素の確認・問題解決への見通し



#### ○学習問題から学習課題(課題例 繰り上がりのある2位数の足し算の進め方をまとめよう。)

- ・既習事項と学習問題の相違点の把握→学習課題の明確化を図る。
- ・課題の意識をもって学習問題解決に取り組む。

自

### 自分の考えをもてるようにするための工夫

#### ○既習事項を活用できようにする支援

- ・本時につながる既習事項の確認、今後つながる学習内容を意識した学習計画の設定。
- ・前時までの学習の流れを確認できる掲示物の工夫
- ・個の理解の状況に対応した学習カードの提供。

#### ○自分の考えを表現できるようにする算数的活動の支援

- ・自分の考えをもち説明につながる具体的支援  
(既習事項、具体物、数直線、グラフ・図・式などの活用)

### 共同思考の組み立ての工夫

#### ○「数学的思考方のよさ」の実感につながる子ども達の思考の流れの構造化

序列化：考え方の質を見極め、それぞれのよさを確認し、序列化を図る。

構造化：複数の考え方の関係を見抜き、互いのよさやつながりをつかむ。

一般化：より良い考え方を導き、いつでも使えるよさをつかむ。

共通化：一見違うように見える複数の考え方の共通性を整理する。

#### ○思考過程の視覚化<板書、掲示物の工夫>

### 評価活動の推進

※形成的評価の覧を参照

## 授業のユニバーサルデザイン化

### ※ユニバーサルデザインとは？

男の人、女の人、子ども、お年寄り……。こまかく言えば、からだの大きな人、小さな人、力の強い人、弱い人、手の小さな人、大きな人、右利きの人、左利きの人などなど……ひとりひとりが、まったくちがう独自の個性を持っています。その違いに関係なくすべての人にとって使いやすいようにはじめから意図してつくられた製品・情報・環境のデザインのことをいいます。

その基本となる考えを学校の授業に導入し、どの子にも、どの学年でも同様に迷うことなく授業に参加し、授業が分かり、楽しむことができるようにしたい。そう考え、導入の工夫を進めております。言葉を換えれば、千秀スタンダードの学習版と捉えていただいても結構かと思えます。



### 授業におけるユニバーサルデザインの導入について

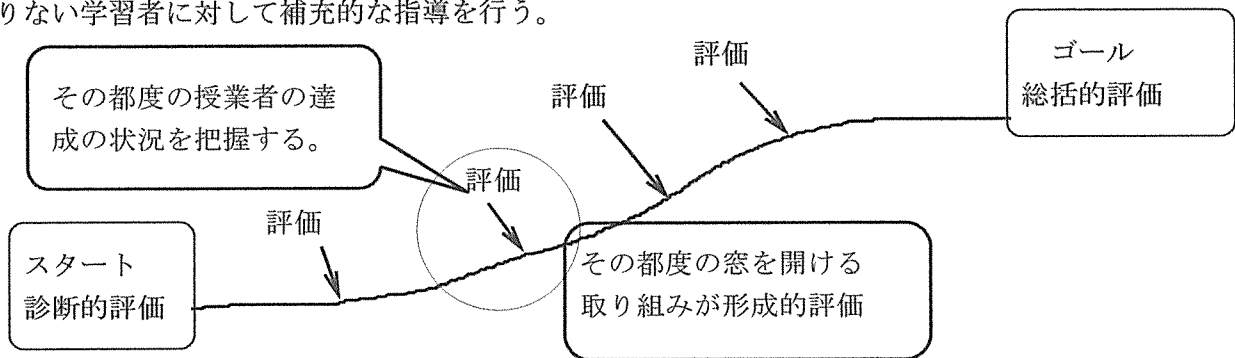
授業内容を見通せる取り組み	授業形態のデザイン	問題解決的学習の過程を千秀小の授業デザインとする。 詳しくは、前項「問題解決的学習の推進」にて
	板書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○板書はみんなの学習ノート。授業構造が一目で分かる構成</li> <li>○問題解決的学習の流れに沿った板書とする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題・主要な設問・児童の発言・発見した事実・考え</li> <li>・まとめ</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>黒板上の記載位置・囲み線の有無・その他の約束事の統一</li> <li>○縦書き・横書きは教科書に準ずる。</li> <li>○黒板の文字は丁寧を書く。 (教師の丁寧さは、子どものノートに反映する)</li> <li>○児童のノートの仕方の学びにもつながるように配慮</li> </ul>
問題解決に向けての支援	教室掲示物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しをもたせるための単元の計画表や設定した学習問題の掲示</li> <li>○学習した内容の掲示</li> <li>○既習事項（全学年までに学習した内容・方法）の掲示</li> </ul>
	支援カード（ヒントカード）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えがもてない子への手助けとなるカード</li> <li>○考えを多様化を導くための視点を広げるカード</li> <li>○徹底した基礎的知識・技能の習得を図る。</li> </ul>
	学習資料（技能段階表等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技能教科などでの学習についての手順・技能・練習法 e t c</li> <li>○考えを表現するための用具の準備</li> </ul>
	指導者全員での共通意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師だけでなく、授業に参加するAT・学習ボランティア全員が共通の授業のねらい、取り組みの理解をもって当たれる。</li> </ul>

授業意欲を高める	声かけ	○意欲・関心・考え等の賞賛、活動を認め、意欲をさらに高める声かけ
	机間観察	○取り組みの状況の把握と、支援の実施の判断 授業者全員への声かけ
	個の支援	○学習の状況に応じた段階的支援の実施 考えるヒントの提供（個が思考することを保障する） ○AT・ボランティアにも共通の意識を持つ

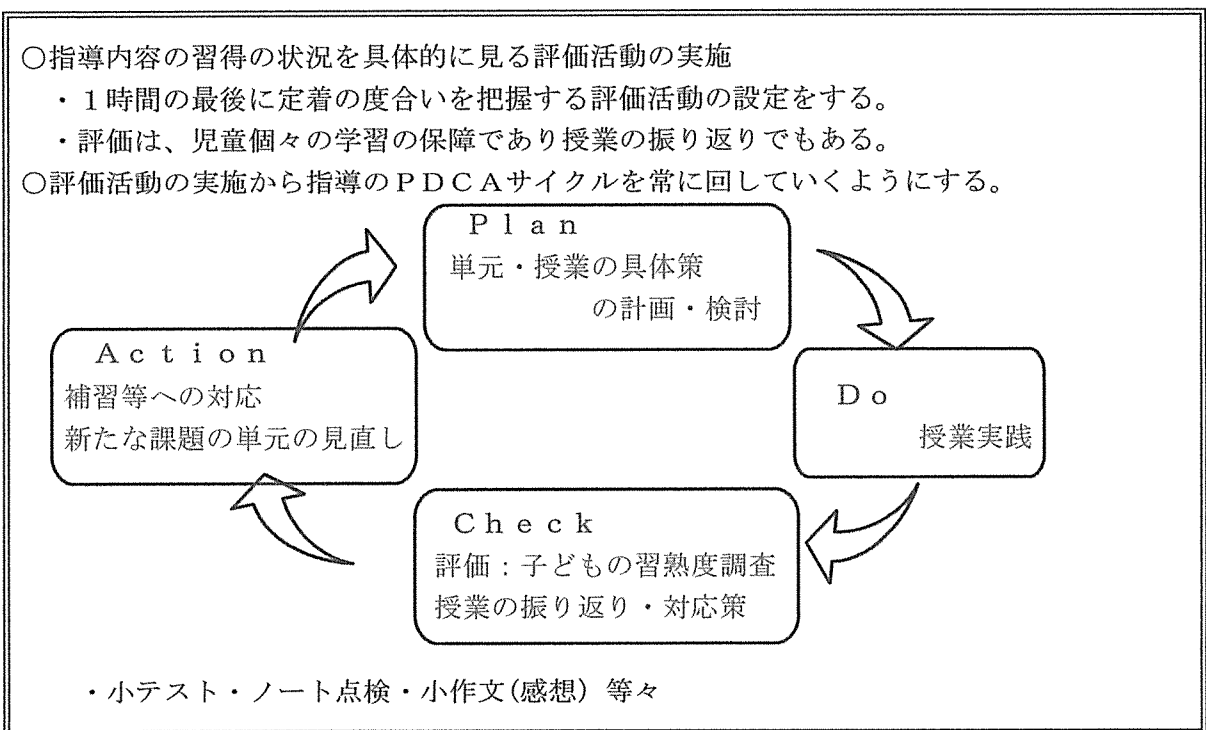
## 形成的評価の推進

形成的評価とは

学習指導の途中において実施し、それまでの指導内容を学習者がどの程度理解したかを評価する。教師はこの情報をもとに指導の計画を変更したり、理解の足りない部分について、あるいは理解の足りない学習者に対して補充的な指導を行う。



## スモールステップの学習評価の実施



# プランの推進計画

